

2007年5月9日

北海道開発局長 本多 満 様

(社)北海道自然保護協会

会長 佐藤 謙

雨竜川のイトウをみんなで考える会

会長 浅川 勉

石狩川水系雨竜川におけるイトウの保全に関する質問書

イトウは、環境省レッドリストで絶滅危惧1B類（近い将来における絶滅の危険性が高い種）、北海道レッドリストでは絶滅危機種（絶滅の危険に直面している種）に選定されており、2006年には国際自然保護連合（IUCN）レッドリストで絶滅の危険が最も高い種、CR（Critically Endangered）に選定されています。文化庁技官でイトウ保護連絡協議会事務局の江戸謙顕氏は、雨竜川水系の朱鞠内湖流入河川についてイトウの繁殖を確認しているが、朱鞠内湖下流については記載していない（江戸、2007）。しかし、私たちや釣り人によって、鷹泊ダムから上流の雨竜川には20センチから30センチの幼魚や50センチ以上の成魚のイトウが確認されています。このことは、朱鞠内湖下流から鷹泊ダムの間（以下、鷹泊ダム上流域と述べる）の雨竜川でイトウが再生産している可能性を検討する必要性があることを示唆しております。

石狩川水系雨竜川河川整備計画（案）では、朱鞠内湖上流域のイトウについては記述されていますが、鷹泊ダム上流域におけるイトウについては触れていません。私たちは河川整備計画（原案）に対してイトウ問題について質問を提出して、この質問に対してご回答をいただきましたが、この流域のイトウについて触れていないものでした。そこで、この流域におけるイトウの分布およびその保全についていくつかの質問をさせていただきます。北海道における絶滅危機種のイトウを保全するという視点から、可能な限り詳細な資料によってご説明をいただきたいと存じます。

なお、ご回答は、5月25日までに、北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel&FAX：011-251-5465）宛に、文書と資料によっていただけますよう、宜しくお願いします。

記

1. 鷹泊ダム上流域におけるイトウの存在と再生産

2006年12月22日に提案された、石狩川水系雨竜川河川整備計画（案）では、「雨竜川上流部にある朱鞠内湖では、イトウ等が生息する独自の生態系が確立されている。このため、魚類等の移動の連続性を妨げている朱鞠内湖（雨竜第一ダム）下流の横断工作物については、施設管理者と連携調整して移動の連続性に配慮する。」（47ページ）と記述されています。

1.1 鷹泊上流域におけるイトウの生息と再生産について

この水域におけるイトウの生息についてどのように把握しているのか明らかにしてください。冒頭に述べたように、この水域でイトウが確認されております。もしも調査をされていないならば、魚類生態学者、生態系保全学専門家などによる生態学的調査を行うべきだと私どもは考えますが、開発局ではどのようにお考えでしょうか？

1.2 朱鞠内湖とその下流におけるイトウの認識について

上記記載では、「このため、・・・朱鞠内湖下流の横断工作物については・・・移動の連続性に配慮する」と述べられていますが、「このため」の内容を明らかにしてください。そのまま読めば、「朱鞠内湖のイトウの移動の連続性を妨げている下流の横断工作物について移動の連続性を配慮すれば、イトウが朱鞠内湖に遡ることができる」という意味に取られます。そのような意味でしょうか、ご回答を求めます。

2. 鷹泊上流域のイトウの生息環境の保全

雨竜川河川整備計画（案）には、魚類の保全に関するいくつかの記述があります。

- 近年、その資源量が減少しているカワヤツメなどの遡上性の魚類が確認されている雨竜川は、その生息環境等に配慮する必要がある。（27 ページ）
- 雨竜川の上流区間、下流区間及び支川の大鳳川の河道断面が不足している区間は、河道への配分流量を安全に流下できるよう河道の掘削等を行う。中流区間については、土地利用や地域の要望等を踏まえ、河道の掘削等により洪水被害の軽減を図る。なお、河道掘削にあたっては、魚類や鳥類等の生息の場となっている水際部、瀬と淵等の保全に努める。（40 ページ）
- 雨竜川では、近年石狩川水系でその資源量が減少しているカワヤツメの生息が確認されている。そのため、河道の掘削にあたっては、河床の掘削を極力避け、カワヤツメなどの魚類にとっての生息環境が良好に保たれるよう配慮する。（47 ページ）

ここで具体的に述べられている魚類はカワヤツメだけです。私たちがすでに述べてきたように、この水域にイトウが存在します。河川に生息する魚類の保全には、瀬と淵からなる一つのリーチを基本とする河川生態系において各種の生態的特徴に応じた対策が必要であり、そのようなリーチを破壊する安易な河道掘削は厳に慎むべきであることは言うまでもありません。カワヤツメの生息環境を維持回復することも大切ですが、生息が確認されているイトウの適切な保全策も必要であろうと考えます。この点についてのお考えを求めるとともに、河道の掘削が河川生態系に及ぼす影響や瀬、淵、氾濫原がイトウの生息と再生産にとってどのような関係があると認識されているのか、ご回答をお願い致します。

江戸 謙顕（2007）：イトウの生態と保全、北海道の自然、No. 45、社団法人北海道自然保護協会、2-10.

以上